10 月号

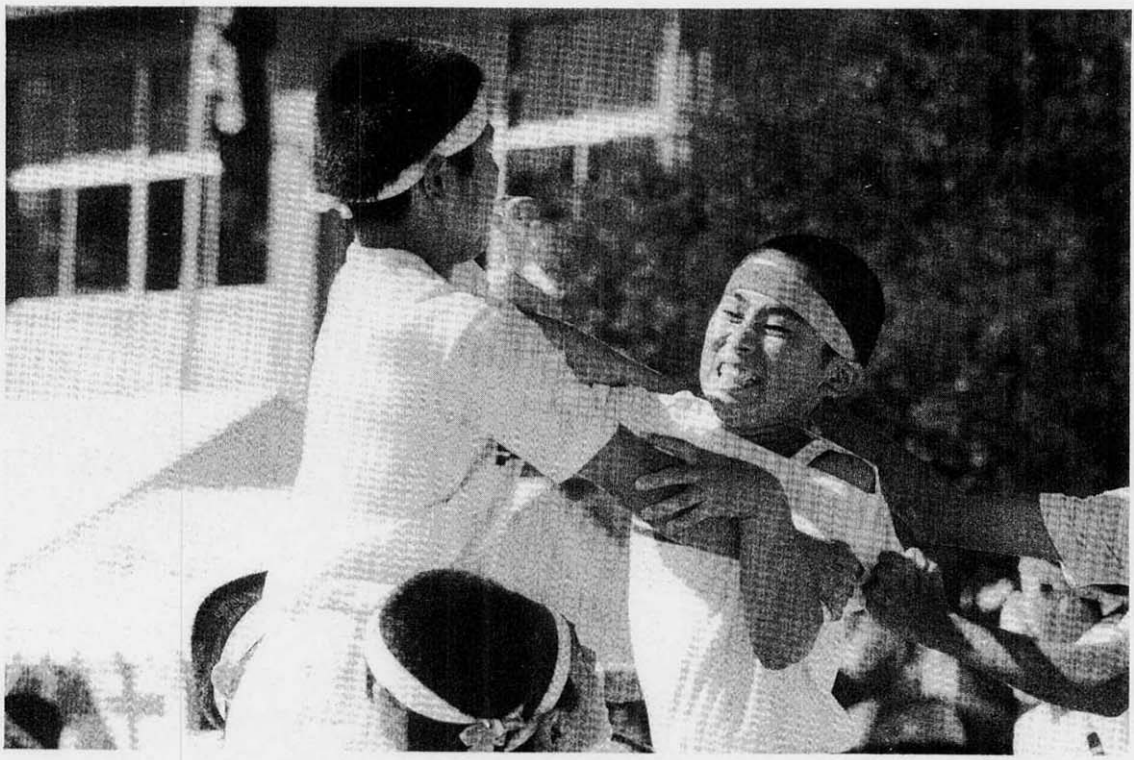
平成６年10月１日
発行／編集
岡崎市教育委員会

君たちは若い。
それは時には、不器用で、粗雑で、
僕たち大人を困らせた。
だが、
そのあふれんばかりのエネルギーは、
たし算やひき算を嫌い、
とんでもないかけ算で答えを出す。
その答えの大きさに、
僕たち大人はいつも驚くが、
予期せぬ答えをどれだけたくましく思い、
目を細めて眺めていたことか。

だが若者よ。
この学び舎のこの机の、
片隅にある小さな傷をも、
忘れないでいてほしい。

その時に握りしめていた鉛筆の長ささえ、
忘れてはならない大切な財産だと、
初めて気づくかもしれない。
いつかきっと終業のベルが鳴る、
その時に――。

〈若者に贈る詩〉



（闘志 ― 福岡中）

— 教育随想 —

救急医療の一端

市立岡崎病院長
杉浦満男

産業界の技術革新が医療界にも大きく影響し、高度の医療機器が数多く現れてきました。その代表的なものは頭部断層撮影装置（CT）、心臓血管撮影装置、内視鏡診断装置等で、医学的知識や医療技術の向上をもたらし、診断、治療に欠かせないものになりました。このような日進月歩の医療情勢のなか、三次救急医療施設の設置が叫ばれ、市民の皆さんから多大な期待のもとに、昭和五十七年三月、西三河唯一の救命救急センターが当院に開設されましたことは、大きな歓びでした。これは市民の皆さんの健康を守るためにも、私たち職員の資質の向上のためにも必須条件で、この十年間で病院は画期的な発展を遂げることができました。

救急医療は医療の原点ともいわれ、初期の治療から集中治療に至るまで広い範囲にわたり、その果たす役割は計りしれないものがあります。開設以来十二年の歳月が経ち、生死にかかわる重症患者の治療に、医師や看護婦はあらゆる手段を講じてまいりました。お陰で入室患者の死亡率が一割弱にまで減少したことは、何物にも代え難いことです。

搬送患者は岡崎、幸田、額田地区で約八十五パーセントを占めますが、時に東名高速道路の事故現場から重傷者が運ばれてきます。

この一年間に心筋梗塞、脳卒中、外傷、窒息等で、約百三十名が心停止の状態で病院に搬送されてきましたが、医師や看護婦による懸命の蘇生にもかかわらず、ほとんどが延命できておりません。たとえ蘇生できても、脳の酸欠状態が五分も続けば意識の回復は見られず、助かっても「植物状態」になります。延髄の呼吸中枢が圧迫されますと呼吸が停止します。その時が「脳死」の状態で、呼吸は二度と戻りません。

病気は我慢が禁物です。特に胸の痛みや苦しみ、強度の頭痛は心筋梗塞や狭心症、クモ膜下出血が疑われ、死に直結いたします。早めに医師の適切な診断を受けなければ、取り返しのつかないことになります。辛抱強い人ほど病気は進行して手遅れになります。自分の健康は自分で管理することが肝要です。

フランス、ドイツ、スイスでは、国の政策として救急隊の車やヘリコプターに医師が同乗して現場で素早く治療しますので、重症患者の助かる確率が上がり、羨ましい限りです。日本ではようやく救急救命士の養成が始まり、岡崎市では二名が誕生して活躍しています。将来は、ヨーロッパの救急医療制度を見習い、医師も救急車に同乗して、救命率を高めることのできることを望んでいます。

（すぎうら　みつお）

本物と視聴覚教材

視聴覚指導員
山田　贊平

体育館で社会科の授業をするという。いったいどんな授業が展開されるのだろう。

新聞紙大の大仏殿の絵が示された。イラストのカラーコピーをつなぎ合わせたもので、子供たちは次々にその資料についての意見を出していった。大仏はどのくらい大きいのだろう。先生は子供たちに体育館のギャラリーに上がるよう指示した。十人ぐらいの子が、巨大な紙の巻物を運んで来て広げ始めた。実物大の大仏が下からゆっくり現れてきた。

「大きい」

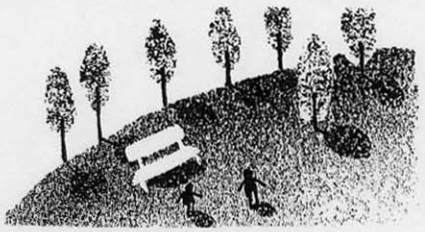
子供たちは床いっぱいに広げられた大仏に見とれている。

「下に降りて絵の上に乗ってもいいよ」

の声で、ギャラリーから巨大巻物の

ふるさとシリーズ

この人に聞く



草木染・染色家

柴田　玲甫　氏

工房「然(SIKARI)」を訪ねた。房守・柴田玲甫さんは、宇野正一氏に俳句を、日展評議員稲垣菘圃氏に書を学ばれている。そして、歌人で染色家の前田ます子さんに出会い、日本古来の草木染の深みのある色に魅せられたそうだ。この前田先生との出会いが、今の活動を始めるきっかけだったという。さらに、草木会主宰山崎青樹氏(高崎市在住)の元に通い、染色の技術を高められた。

柴田さんは感動を俳句にされ、その俳句を書にし、さらに草木染によって暖簾や着物に残してみえる。

「まめ殻の摘まれて土の安堵かな」麻の暖簾に染められた俳句が、なんとも情緒深かった。自分の感動を草や木に託して、身近に置いておきたいといわれる。

話をされながら、年代ものの桐箪笥から草木染の作品を取り出して見せてくださった。どの作品も淡く優しい色で染め上げられている。

「同じ種類の木で染めても、使う木によって染め上がりの色が違います。育っていた場所や木の年齢によっても違うし、採取の時期によっても違います。その木が一番いい色を出す時期があるんです。例えば、梅は、花をつける前の枝で染めると美しい肌色がいただけます。一月の梅の枝を折ってみると中が赤く、それが伝わって花の色になるのでしょう。花に行く前の色をいただくのです。」

身近な自然を見つめ、対話しながら草木染を楽しんでいるという印象を受けた。植物の生きる力を取り出し、色で表現してみえるのである。

「草木染は呼吸をしています。空気に触れることで、色はますます深みを増します。化学染料の色は時の流れと共にあせていきますが、草木染は色が深まっていくのです。ですから、正倉院に納められている草木染は千年を経てもなお、深い色を保つことができるんです。」

柴田さんは活動を続けながら、文化センターなどで技術指導をしてみえる。また、工房では講演会や講習会・小品展を開催される。さらに、パリで個展開催と、海外との技術交流も試みられている。野山の植物からしか四季を感じ取ることのできにくくなってきている現代、昔ながらの技術にこだわり、自然と共に活動をしてみえる柴田さんに新鮮さを感じた。

氏　　名　しばた　れいほ
　　(柴田　紀子)
生年月日　昭和十五年十一月七日
住　　所　岡町東野々宮十二-七

上へ急いで散っていった。手のひらの上に集まったり、それぞれに大きさを歩測したり、寝転んで自分の身長と比べたり…。

本物のもつ迫力や雰囲気、質感を味わうことはできない。だが、実際の見学では不可能なことが、この巨大な巻物では可能であった。

この巨大な巻物は、子供たちにとって、大仏の大きさを実感できる魅力的な教材となっていた。さらに、子供たちがそれぞれに、または協力して自分の手や足で学習課題に取り組むことができるという点でも、大変価値が高い。

子供たちは、修学旅行ではきっと思い出すであろうし、この授業のことはずっと忘れないだろう。

それにしても、模造紙を何百枚も張り合わせて、大量のペイントを使ってのこの教材の製作には、大変な苦労があったに違いない。企画・製作を担当した先生に敬意を表したい。

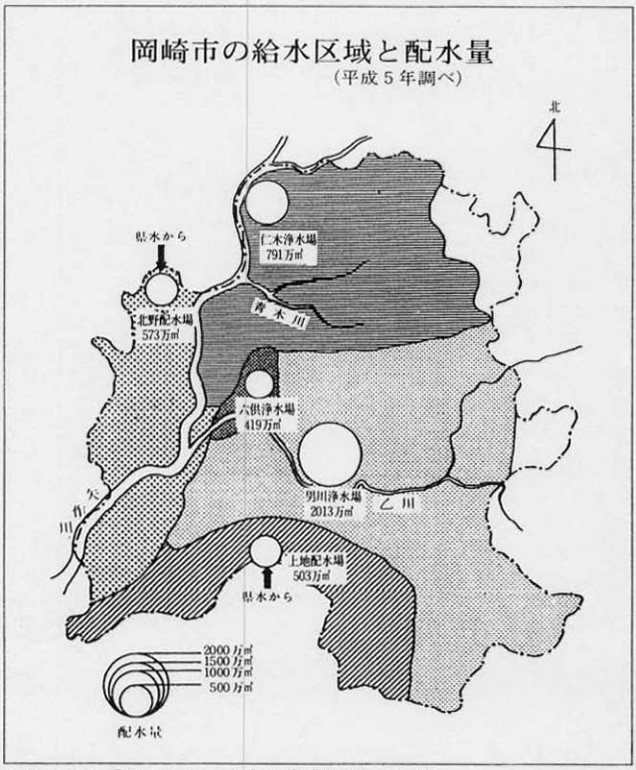
【推薦する専門書】

『放送教育』(月刊誌)
日本放送教育協会

『視聴覚教育』(月刊誌)
日本視聴覚教育協会

―― 岡崎の上水道 ――

▲ 昭和８年、市内で最初に建設された六供浄水場

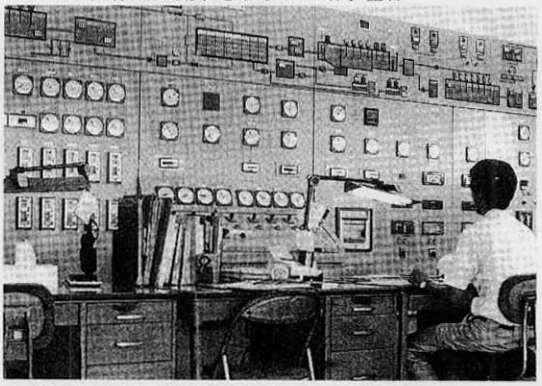


（郷土読本『ほそかわ』・『水道事業概要』より）

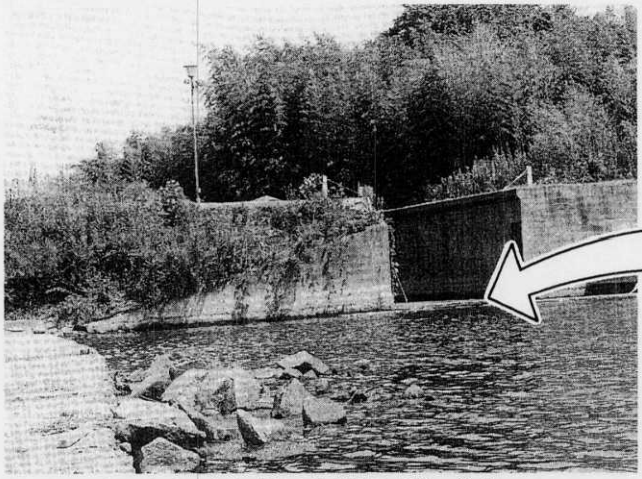
“おうすいてんこう”―― こんこんと湧き出る清水（せいすい）が広く行き渡るように、という願いを込めた言葉が、六供浄水場の配水塔正面に刻まれている。

▲ 矢作川伏流水を取水する集水埋管

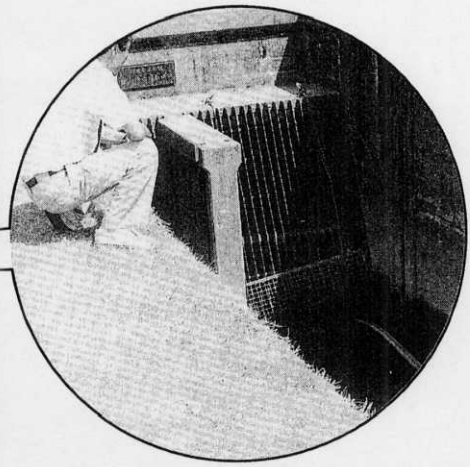
▲ 日名水源取水塔で確保された水は六供浄水場へ送水



▲ 24時間体制で集中管理されている男川浄水場



▲ 男川取水口からの水は市内の約半数の家庭へ給水



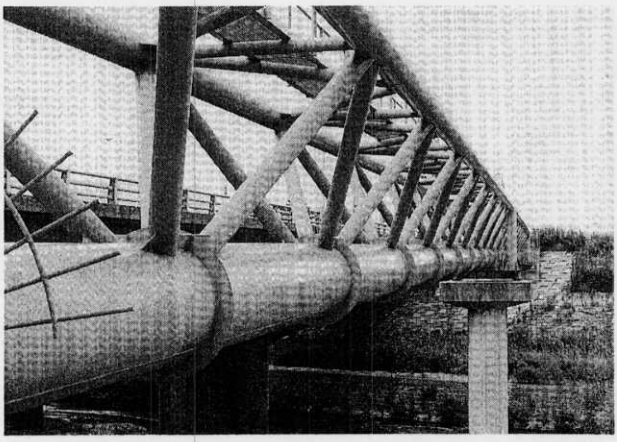
▲ 渇水の今夏、水位が著しく下がった取水口

今年の夏は異常気象による水不足が大変心配された。広報車による節水PRなど、水道局の渇水対策が功を奏し、市民の節水意識が高まった。例年に比べ、水の使用量はかなり減ったということである。

岡崎市は、三か所の浄水場と二十八か所の配水場をもつ。仁木浄水場と六供浄水場は矢作川から、男川浄水場は乙川からそれぞれ取水し、市内に給水している。また、北野と上地にある配水場は、西三河水道から県水（県から買う水）の供給を受け、市内に給水している。本市上水道の特徴は、乙川からの取水量が全体の五割近くを占めているということにある。このため、自己水（水利権をもつ水）八割、県水二割という、近隣市に比べて非常に高い自己水の取水率を保つことができている。

日ごろ蛇口から当たり前のように流れ出る水であるが、渇水時にも水の安定供給をするための苦労をしていることを思うと、『汪水沾洽』に込められた先人の思いを改めて痛感させられる。

▲ 埋設水管の漏水を探知



▲ 青木川を渡る口径700㎜の送水管

▲ 埋設水管の位置を探知

ふれあい

サマーキャンプ

チューリッヒ日本人学校
鳥居　是典

スイスブラウンという名の黄土色に少し茶色がかった乳牛たちが、ゆったりと草を食んでいる。その横を通り過ぎ、私たち一行はチーズ小屋に到着した。ここでは、ハイジの時代を彷彿させる昔ながらのチーズ作りを見学することができるのだ。

まず、村の観光課の人から英語による説明を聞く。次に、チーズ作りの実演を見学した。大きな鍋に牛乳を入れ、薪の火でゆっくりと煮詰める。その後、頃合いをみて、牛乳を固めるための菌を入れる。日本の豆腐の作り方によく似ている。ここにいるほとんどの子供たちは、豆腐の作り方は知らないがチーズの作り方はよく知っている。

一つ一つの工程を、子供たちの目は真剣に見つめる。機械化されたチーズ工場を見学した時とは違った緊張感が、小さな小屋の中に広がる。

細かなビーズ状のチーズの塊ができ、それを丸い枠の中に入れ、ぎゅっと型押しする。この段階のチーズは何の味もしない。みんな少しずつ口に入れ、それを実感する。このチーズを塩水に漬け発酵させると、独特の匂いと味のある、スイスのチーズが完成する。

サマーキャンプの中に組み入れたチーズ作り見学。日本とは一味違った体験に、子供たちも先生も共に目を輝かせる。「ふうん、そうやって作るんだ。」

師弟同行

音楽を愛する心

竜美丘小学校
酒井　久男

瑞穂の空に、愛知の子供が奏でるファンファーレが響き渡る日も目前です。晴れの大舞台を控え、竜小の吹奏楽活動を振り返るとき、その出発点は依治校長先生との出会いであったと確信しています。

十四年前、赴任してまだ間もないころ、「小学生の吹奏楽はどうですか。」と、廊下で擦れ違う校長先生から語りかけられたことがしばしばありました。その口調は、常に穏やかでしたが、初めての小学生への管楽器指導に戸惑う私には、すぐに言葉が見つからず、「がんばってます。」と、見当違いの返答しかできなかったことを記憶しています。

そんな私が泣き言を漏らす度に、「可能性を追求してみてください。」と、先生からは奮起せざるを得ない励ましを贈っていただいたものです。

また、自作のオーディオでモーツァルトを聴き、自らフルートを楽しまれる先生の姿は、「可能性の追求」が、単なる技術的な問題ではなく、子供たちの音楽を愛する豊かな心と表現力を育成することであることを、無言のうちに諭してくださったのです。

心に育てる

元竜美丘小学校長
鈴木　依治

秋の国体も迫ってきました。開会式の「ハレ」の舞台への子供たちの意気込みが、山里に住む私にも伝わってきます。体より大きな楽器も扱わなければならない小学生にあって、「可愛いさ」で許される演奏ではなく、子供の能力の限界を極め尽くしたすがすがしい演奏をする楽団ができたら、こんな願いで設立した吹奏楽クラブでした。この願いが、酒井久男君によって実現できました。

「可能性の追求」と、言葉だけがひとり歩きになり易い教育界にあって、電子機器を導入して、正しい音調、美しい響き等の基礎を子供心に訴え、徹底して育てていたあなたの放課後の姿が、今も鮮やかに脳裏に焼き付いています。

楽器の機械的な奏法は練習の積み重ねで子供にもできましょうが、和声と音楽の心を育てることは並大抵ではできないでしょう。指導者自らが磨き上げた能力と、それを子供の心に如何に育てていったらよいかという具体的かつ綿密な方法、そして子供と苦楽を共にする愛情があってこそ実現できるものと思います。

一層の精進と御自愛の程を望みます。

お知らせ

◆**愛知県野生生物保護実績発表大会**（全国大会へ出場）
愛知県知事賞　生平小学校

◆**あいち下水道フェア図画・ポスター**（全て四年）
特選　矢北小　中根　緑
竜美丘小　橋川　光
入選　常南小　関本　優樹
矢東小　玉田恵理子

◆**県小学校放送コンテスト**
・アナウンス部門（全て五年）
最優秀賞　井田小　小林麻衣子
優秀賞　竜美丘小　三室　彩亜
竜美丘小　住野　美佳
・朗読部門（全て六年）
優秀賞　井田小　川本　晶子
優良賞　井田小　上杉　康久

◆**全国中学校放送コンテスト**
・ラジオ番組部門
優秀賞　常磐中学校
・アナウンス部門
入選　美川中　小林　祥子

◆**岡崎市小中学校児童生徒統計グラフコンクール**
市長賞
三島小　六年　山田　亮介
六北中　三年　内藤由美子
市議会議長賞
福岡小　五年　太田　好乃
竜海中　二年　市川　敬晃
稲垣　淳哉
教育委員会賞
大樹寺小四年　桜井あお衣
濱井　美穂
岩津中　一年　内田　満則
学校賞
三島小学校
岩津中学校

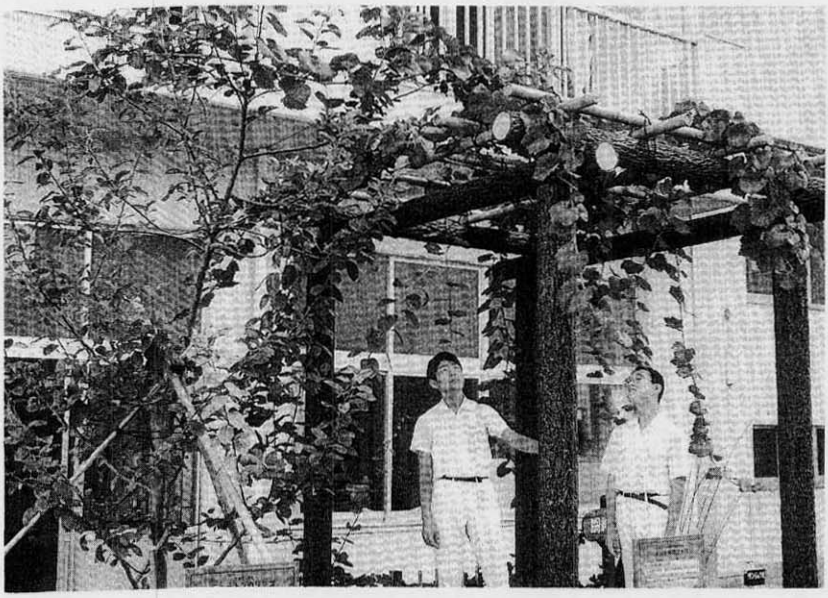
◆**全国学校音楽コンクール三河大会**
金賞
梅園小学校
矢作南小学校
六ツ美北中学校
銀賞
矢作南小学校
六ツ美北中学校
銅賞
梅園小学校

◆**全国少年少女水泳競技大会**
・五十M自由形
優勝　広幡小　山本　晃世

◆**愛知県中学校カヌー大会**
男女総合優勝　新香山中学校
優勝（全て新香山中生）
・カヤックシングル
城殿　真代
・カヤックペア
城殿　真代・南場　智恵
・カヤックフォア
鈴木　佐織・田中　郁美
片山ゆかり・中條　美和

◆**東海中学校総合体育大会**
優勝
・バスケットボール男子
城北中学校
・陸上男子一年千五百M
竜海中　冨田　好志
・陸上女子共通二百M
竜南中　鈴木　智実
・陸上女子共通百MH
矢北中　竹山かおり
準優勝
・相撲
東海中学校
・ソフトテニス男子
矢作中学校
・陸上男子共通走高跳
常磐中　杉江　浩一
・陸上女子共通百MH
葵中　加藤　友里
第三位
・バレーボール女子
矢作北中学校

城北中



創立三十周年を記念して、「メンデルのブドウ」「ニュートンのリンゴ」の親木から採った枝を東京大学から譲り受けた。実が熟すと共に生徒の科学の目も育つことを願う。

鈴木耕次郎氏（本宿町）蔵

郷学校幹事任命書

壬申（明治五年）の三月、明治政府は学制を公布した。これによって従来のすべての学校は廃され、新しい小・中学校などに転換し、前年に設けられていた文部省が中央教育行政機関として全国の教育機関を総括することになった。

小学校は満六歳を入学年齢とし、下等小学四年、上等小学四年の八年制で、男女ともこの二等を卒業する。その建設経費の大部分は民費負担であった。当時の額田縣（明治五年十一月愛知縣に統合）から任命された郷学校（ごうがっこう）幹事は、小学校建設に力を注ぐことになる。

額田郡本宿村では鈴木氏と香村喜助氏が郷学校幹事として活躍し、村校として寺の本堂を借りて小学校が開かれた。その後も縣から学務委員に任命されるなど、学校教育と長くかかわっていくことになる。

学校の存在が学区の上にあることを、学校誕生の歴史からも見直したいものである。

・表紙写真　福岡中　丹羽郁人
・表紙詩　福岡中　丹羽郁人
・カット　東海中　石橋一見

オアシス

「男心と秋の空」という。天気の変わりやすい時だが、朝晩ぐんと涼しくなってさわやかさを感じる。年度のちょうど半分にたどりついたこのあたりで、季節の素晴らしさを生かし、子供たちに自分のもつ可能性を大いに発揮させたいものである。

昭和八年九月、岡崎市初の上水道が給水を開始して以来、六十一年を経る。蔦の絡まる六供の配水塔は、二年前（一九九二年）に岡崎市都市景観環境賞を受け、我々市民に今なお水を供給し続けている。

コップ一杯の水の有難みを思う。

雨が恋しかった夏も、そろそろ遠い記憶に……。八月の降水量は、岡崎市東部で四十・四ミリメートル。これは例年の約二十七パーセント。六月から八月までの積算でも約四十パーセント。

「節水」という大切な教訓を得た夏だった。

ススキは猛暑の中でも確実に秋を感じ取り、穂を膨らませる。十分膨らんだ時期を見計らい草木染にすると美しい若草色になるという。かしこまらない身近な草木から生まれてくる色は、何ともいえない優しさを感じさせる。自然の魅力をまた一つ知ることができた。

＊時代の呼吸　横内　恭
中日新聞本社開発局　¥1500

＊難儀もまた楽し　松下むめの
ＰＨＰ研究所　¥1000

＊人間通になれ　野坂　昭如
青春出版社　¥1100

＊風に吹かれて　須永博士
七賢出版　¥1800

※素顔のアインシュタイン　マイケル・ホワイト他
新潮社　¥1800

アインシュタインは二十世紀の顔である。「人生で最も美しくて深遠な経験は神秘を感じること」が研究を支える。

計算が遅く、語学が苦手な劣等生時代、画一的な教育に反発したため、教師にろくな人間にならないと烙印を押される。

ドイツを愛し、反ナチを貫く。徹底した平和主義者を自認し、原爆製造を主張する。恋愛結婚した妻を捨て再婚する。

神格化された偉大な科学者の人間臭い実像が等身大に描き出されている。